

★清掃に関するお話から

「やりがい」の有無

～米航空宇宙局（NASA）で働く2人の清掃員の話から～

一方の清掃員に仕事について尋ねると、「やりがいがない」と答えました。「せっかく掃除をしても、すぐにみんなが汚してしまう」などと愚痴ばかりこぼすのです。ところが、もう一方の清掃員は違いました。「この仕事は名誉な仕事だ。我々は人間を月に送り込んでいる。私の仕事は、宇宙ロケットの故障を防いでいるのだ」。

この違いは、管理者が発した動機付けの差にありました。前者の清掃員の管理者は、彼にただ一言「きれいにせよ」と言っただけでした。しかし、後者の清掃員の管理者は、彼にこう伝えました。「この掃除はとても重要な仕事です。小さなゴミやチリ一つでも、ロケットエンジンの故障の要因になり得るからです。あなたにしっかりと清掃してもらわないと、月に向かうあの宇宙ロケットの打ち上げは成功しません」。

この動機付けにより、後者の清掃員は「自分も宇宙ロケットの打ち上げに参加しているのだ」と思うようになりました。一見、宇宙ロケットの開発や打ち上げには直接関係がないと思われがちな仕事でも、実際にはきちんとしてもらわなければ打ち上げの成否にかかわりかねません。

組織の全体最適を支える「全員参加」に社員たちを導けるかどうかは、管理者に大きくかかっていることが分かることでしょう。

話は、ここで終わりますが、しかし、これは、管理者だけの問題でしょうか。いやいや、この清掃員の考え方にこそ、その重要性があると思います。良い指示をしても、受け取る側に向上心がなければ、いつになっても前進はありませんね。やはり、やる側の「やる気」がどの程度かが大切なのだと思います。

豊里中の生徒の皆さん、あなたの「やる気」は、どうですか？ この判断が、あなたの力になるのです。 **さあ、FIGHT！**